

# 山行報告書

報告書作成

2006年9月10日

山名 [山域]	田村川・割谷 (鈴鹿・仙ヶ岳)	目的と方法	沢登りを楽しむ
登山期間	9月9日(土)	山行形態	日帰り・周回
参加人数	5人		

## 行動記録

9/8(金)

岡崎(22:00)==豊田東IC(22:20)==御在所SA(23:30,23:50)==亀山IC(0:20)==道の駅「関宿」(0:30,1:00就寝)TS1

9/9(土)

TS1(5:00,5:30)==割谷登山口P(6:30,7:00)--二俣分岐600m地点(左俣へ)(7:25)--三俣(中へ)(7:45)--左俣620m地点一本(8:00,8:10)--仙ヶ岳登山道(9:20)--仙ヶ岳頂上(9:25,10:20)--御所谷分岐(割谷右俣下降点)(10:45)--二俣分岐一本(11:30,11:40)--割谷登山口P(12:00,12:20)==亀山の湯150円(13:00,14:00)==岡崎(16:20)

## 概念図



## 日誌

9/8(金) プラドのスターターが回らず、急遽KAさんの車に変更、ハイオクを給油し5名で楽しくドライブする。御在所SA でお茶とおパンを仕入れるがおにぎりがない為、もう一度コンビニで明日の朝・昼分のおにぎりを買う。鈴鹿付近で雨になった、「関宿道の駅」で夜を明かす。

9/9(土) 天気は曇りのち雨。夜も明けぬ時間に起床。割谷を目指す。割谷登山口の草地に車を頭から突っ込み駐車、準備する、草地をぞうりで歩いたら、すぐに3匹の小ヒルが付いていた。割谷に入渓してすぐに堰堤を2つ巻く、すると砂利の広い平坦地に小木が点在し、花の香りの漂う心地よい場所を歩く。20分くらい歩くと二俣分岐(600m)に出るここを左俣へ進む、2~5mの小滝が連瀑している、もろいが難なく直登できる、その後小滝がつづくが安全短はだめ、しっかり沢登りを味わう。岩が黒から白い花崗岩に変わると少し明るくなる。終わりに近づき、この谷最大の15mの滝も快適に登れる、がしかし気を抜くと滑った、手のひら、指、うで、体すべてを使って確実にのぼろう。ガレを登り、灌木の急斜面になると仙ヶ岳登山道に出た、右(西)へ行く、ガスで入っているが風が気持ちいい、仙ヶ岳(961m)山頂でのホットドリップコーヒーの回し飲みがとてもおいしい。山頂から西へ境界線沿いに行く、ガスで周りが見えず読図技術が必要だ、25分で御所谷分岐(右俣下降点)の看板に出る、そこを右(北)へ下って行くと二俣分岐で見覚えのある谷に出る、ここで休憩していると後ろから若いペアの沢やさんが追いついた、大阪の山の会の人でお話をする。そこから20分で割谷登山口Pに着くが、まむし、がま、ひるが出迎えていた。白鳥の湯(150円で安い!)でさっぱりして帰る。

## 感想

沢登りは最高、何が良くて、人が少なく自然のままだし、沢水がずいずい、岩登りで少し緊張するところもいいし、沢の水源を登り切って稜線に飛び出る開放感もいいし、山頂を踏んだ達成感も味わえるし、また今回は下山道がなく、周遊して同じ割谷で下山したが、見覚えのある割谷に帰ってきて懐かしささえも感じた。